

その昔、おひんは「甘酒」として、好んで飲まれていました。調味料として広く使われるようになったのは、江戸時代の後半です。流山でおひんがさかんに作られるようになった理由として、①原料の米と水を手に入れやすかった。②江戸川から船で出荷できる。③た〜さんの方が住む江戸が近い。という3点が考えられます。流山の「白みん」は江戸でも大人気でした。

### <5>人気者・おひん

現在、千葉県の県庁は千葉市にあります。明治時代の初めに流山の村々は、まず葛飾県の一部となります。江戸川沿いで交通が便利だったことから、流山に県庁が置かれました。続いて、葛飾県をもとにして印旛県が誕生します。明治6年に千葉県となるまで、県庁は流山に置かれていました。博物館の外に、県庁があったことを記念する「葛飾県印旛県史跡の碑」が建てています。

### <8>県庁があった？

人や荷物を船で運んでいた時代、江戸川と利根川をつないで近道をつくらせたいと願う人びとがた〜さんいました。その願いをかねえたのが利根運河です。工事にはお金がかかるので会社を作り、エンジニアの技師さんなどに設計や監督を頼みました。工事はほとんど人力で進められ、約2年かかいました。長さ約8.5kmの利根運河ができたことで、約40kmの近道になりました。

### <9>利根運河

明治、大正、昭和の中ごろまでは、外国との戦争がくり返された時代です。流山からも多くの方が戦争に行きました。流山には、糧秣廠という、陸軍で使う馬のえさを扱う場所がありました。今の平和台駅の近くです。糧秣廠には、えさとなる干草を納める倉庫や、荷造りのための工場、働く人たちのための施設もありました。

### <11>戦争の時代

### <1>人はいつから住んでいた？

流山に人が住み始めたのは、今から3万年前といわれています。どうしてそんなことがわかるのでしょうか。それは今の初石の近く、若葉台遺跡の3万年前の地層から、当時の人が使った石器が見つかったからです。流山市内ではたくさんの遺跡が発見されています。それぞれの遺跡や、遺跡から出土した物を調べることで、遠い昔のこともわかるようになるのです。

### <0>新選組って？

新選組のリーダーだった近藤勇と、サブリーダーだった土方歳三。各地での戦いに敗れて流山にやって来ました。どうして流山に来たのか、はっきりとはわかりません。仲間をつれた二人が流山にいたのはほんの数日間だったが、村は大騒ぎになった、ということが、当時の人の日記から読みとれます。流山でも負けてしまった二人は、その後、別々の道を歩むことになりました。

はくぶつかん  
ものしりブック  
(1)

ゆかのシールの番号をさがして  
もっとくわしく見てみよう！

これできみも  
はくぶつかん博士だ！  
また遊びに来てね。

流山市立博物館

# 1枚の紙で製本してみよう

カッターで切る



やまおい



たにおい



1枚の紙に印刷して、つくってみてね！